

ユーザー訪問 エスマイル薬局 呉本町店 (広島県呉市)

# 「ミスゼロ子」がないとピッキング時に二度見、三度見してしまう

今年4月に開局した広島県呉市のエスマイル薬局 呉本町店では、調剤ミスを防止するバーコードピッキングシステム「ミスゼロ子」を導入。操作の簡便性、システムの優秀性を高く評価している。

## “地域密着型”の薬局としての使命を果たす

「調剤事業を通しての地域住民のQOL向上」「医薬品の販売を通してのセルフメディケーションの推進」などをビジョンに掲げる(株)エスマイル(代表取締役:金子昌司氏、本社:広島市西区)は、中国地方(広島県、岡山県、山口県、鳥取県、島根県)を中心に100店舗以上の薬局を展開。市内中心部から郊外エリア、人口の少ない山間部や離島においても薬局を開業しており、“地域密着型”の薬局としての使命を果たそうと努めている。

その同社が今年4月1日に開設したのがエスマイル薬局 呉本町店(広島県呉市)。近隣の外科・整形外科、泌尿器科からの処方箋を中心に、1日当たり約90枚を応需している。新規店舗のため、現在は広島第1事業部南エリア長(薬剤師)の三浦裕之氏も常勤。その三浦氏を含め、薬剤師3人、事務2人のスタッフで業務をこなす。

三浦氏は「今後、地域包括ケアシステムが推進されていくなかで、医療チームの一員として薬剤師が今以上に貢献できるよう、的確な服薬管理・服薬指導に努めるとともに、専門性を高めることも必要だと思っています」と薬局・薬剤師の役割について語る。

実際の服薬指導としては「まず、相手に伝わらないと意味がありません。個々の患者さんの年齢や状態をよく見て、話すスピードや声の大きさに注意し、わかりやすく説明する

散薬監査の常用量チェック画面 (クカメディカル提供)



薬剤師1人に1台は必要と、エスマイル薬局 呉本町店では「ミスゼロ子」のハンディ端末を3台稼働させている

ことを心がけています」とのこと。

また、「患者さんが安心して相談できるような薬局にするには、信頼を得る必要がありますが、調剤ミスをしているようではダメです。そうしたミスを防ぐために、『ミスゼロ子』が大いに役立っています」という。

## 他剤調剤、規格違いのミスを大きく軽減

「ミスゼロ子」は調剤カセットに貼ったバーコードシールやPTPシートのGSI-RSSコードをハンディ端末で読み取って、レセコン入力データと照合し、調剤ミスを防止するバーコードピッキングシステムである。エスマイルでは2004年から、薬剤の常用量チェックが必要な小児患者の来客が多い店舗を皮切りに、「ミスゼロ子」の散薬監査システムを導入してきた。現在、新規開設店舗では、「ミスゼロ子」散薬監査システムだけでなく、ピッキングシステムも合わせて標準的に導入している。

三浦氏は「『ミスゼロ子』によって、他剤調剤、規格違いのミスは大きく軽減します。実際、『ミスゼロ子』を導入していない店舗では、先発品と後発品の取り違いが見られることもあります。一般名処方も多くなってきたので、有用性はますます高まっています。

また、『ミスゼロ子』のマスターには、発売されているほとんどの薬品が登録され、JANコードだけでなく、GSI-RSSコードにも対応しています。マスター更新の頻度も高く、薬局でのメンテナンスの手間が少ない点も選択の大きなポイントの一つです」と評価する。

同店管理薬剤師の橋本貴徳氏も「最初は面倒に感じましたが、操作は簡単ですぐに慣れました。今では『ミスゼロ子』がないとピッキングの際に二度見、三度見しないと、不安で仕方がないと感じます。処方内容の入力ミスをチェックできることも、安心材料になっています」と「ミスゼロ子」のメリットを実感している。三浦氏は「ITシステムを過信してはいけませんが、そうしたシステムが“できること”と“できないこと”を知っておきさえすれば、薬局業務の大いなる味方になってくれます。その好適例が『ミスゼロ子』です」と指摘する。



清潔感にあふれた店内では、水槽からのせせらぎにも似た水音が、安らぎの空間を演出する



左上から薬剤師の徳田克氏、橋本貴徳氏、三浦裕之氏、左下から事務の宮迫理奈氏、山本明子氏